

Y03c 新城新蔵の宇宙進化論の理論的基礎に関する実証的研究

株本訓久 (武庫川女子大学)

本研究の目的は、新城新蔵(1873-1938)が提唱した宇宙進化論の理論的基礎となったものは誰の理論であったのか、ということを実証的に解明することにある。新城の宇宙進化論は、太陽系を含むすべての恒星、星団、銀河、宇宙に至るまでの形成と進化を、流星集団の重力収縮によって解釈することを試みた理論であり、1915年に京都帝国大学理科大学講習会「宇宙進化論」において、最初にその概要が発表された。宇宙進化論は新城自身が論じているように、J.N.Lockyer、G.H.Darwin、H.N.Russell、Thomas Jefferson Jackson Seeらの恒星進化論を基礎に形成されたものであった。これまで新城の宇宙進化論に関する天文学史的な研究は、山本一清、荒木俊馬、小暮智一ら京大宇宙物理学科の関係者によって行なわれている。それらにおいて、山本は「新城の宇宙進化論はJ.N.Lockyerの流星仮説とは何の関係もない」と述べる一方、荒木は「新城の宇宙進化論はJ.N.Lockyerの説を発展させた」と論じ、小暮は「新城の宇宙進化論はH.L.F. von Helmholtzの収縮説を基礎としているが、太陽系の生成の説明はI.Kantの説に近い」と解釈しているように、三者の見解は異なるものとなっている。さらに新城の宇宙進化論の形成に大きな影響を及ぼしたT.J.J.Seeの恒星進化論については、三者ともに全く言及していない。今回、本研究では新城の研究論文及び論著を詳細に調査し、宇宙進化論の形成過程を明らかにすることで、宇宙進化論の理論的基礎となった理論は誰のものであったのかを実証的に解明し、三者の見解が異なるものとなった原因、さらにT.J.J.Seeの理論の影響が見落とされた理由について一つの解釈を示した。